

課題1 意味調べ……次の語をノートの意味調べ欄に書き出し、意味を調べておく。

- ①なほ      ②あやし      ③いかでくばや      ④つれづれなり  
 ⑤宵居よひゐ      ⑥ゆかし  
 ⑦心もとなし      ⑧人ま      ⑨みそかなり      ⑩とし（疾し）  
 ⑪すごし      ⑫わたる

課題2

**助動詞**を見つけ、□で囲む。文法的説明をし、自分で口語訳をしておく。

ヒント・各行の先頭に、その行に含まれる助動詞の数を示しています。

2 東路の道の果てよりもなほ奥つかたに生ひ出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむを、

3 いかにも思ひ始めけることにか、世の中に物語といふもののおんなるをいかで見ばやと思ひつつ、  
 つれづれなる昼間、宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏の  
 あるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど、わが思ふままに、

1 そらにいかでかおぼえ語らむ。いみじく心もとなきままに、等身に薬師仏を造りて、手洗ひ  
 などして、人まにみそかに入りつつ、「京にとく上げ給ひて、物語の多く候ふなる、ある限り  
 1 見せ給へ。」と、身を捨てて額をつき、祈り申すほどに、十三になる年、上らむとて、九月三日  
 1 門出して、いまたちといふ所に移る。

1 年ごろ遊び慣れつる所をあらはにこほち散らして、立ち騒ぎて、日の入り際のいとすごく  
 3 霧りわたりたるに、車に乗るとてうち見やりたれば、人まには参りつつ額をつきし薬師仏の  
 4 立ち給へるを、見捨て奉る、かなしくて、人知れずうち泣かれぬ。

漢文 論語 国語総合古典編 P128～P133

課題1 白文をノートに写し、書き下し文を書く。

課題2 教科書の脚注やP133の\*重要語▼句法、パンダを使って口語訳に挑戦する。

1

子曰、「吾十有五而志于学。三十而立。四十而不惑。五十而知天命。六十而耳順。七十而從心所欲不踰矩。」

5

子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」

6

子曰、「学而時習之、不亦說乎。有朋自遠方来、不亦樂乎。人不知而不愠、不亦君子乎。」

7

子曰、「学而不思、則罔。思而不学、則殆。」

9

子貢問曰、「有一言而可以終身行之者乎。」子曰、「其恕乎。己所不欲、勿施於人。」